

# ルポ カネカ「東雲寮」

## 多摩産材などで大規模社員寮

カネカ(東京都、田中稔社長)は、同社が取り組む外断熱・二重通気工法「カネカのお家 ソーラーサーキット」を用いて、同社鹿島工場(茨城県神栖市)の社員寮「東雲寮」を建設中だ。同社は断熱・気密にかかわる技術と経験を基に、ZEHやZEBなど省エネ建築物向けの商材と約400立方メートルの多摩産材などを使って木造2階建ての大規模社員寮の建設に挑戦。完成は2022年7月末を予定しており、既に躯体は完成した。

カネカは、断熱材や太陽電池で培われる社員の絆を大切に池モジュールといった強みをしたい思いや社員の健康への生かして「カネカのお家 ソーラーサーキット」と称して、県、大阪府、兵庫県にある住宅ソリューションの総合提案の建て替えを進めてきた。住宅を進めている。

2016年には兵庫県高砂市、モデルハウスを建設。全棟とカーポート30カ所に太陽電池を搭載した「KAN-EKA サステイナブルニュータウン」として、入居する社員の快適性と健康を第一に考え、カネカのお家 ソーラーサーキットを採用した。

現在、鹿島工場には約200人の従業員が在籍し、単身赴任者も多い。同社は福利厚生として各拠点に独身寮・社宅を整備している。その一つの東雲寮は1970年に建設され、老朽化をき

躯体には多摩産材の120°角流通材などを使った

躯体には多摩産材の120°角流通材などを使った

## 温熱環境を整えた健康な木造の家づくり



かけに建て替えを決めた。

建設中の東雲寮は延べ床面積約2515平方メートルで、1室当たり25平方メートルのワンルーム60室の独身・単身赴任寮。木造2階建てで準耐火構造となっている。設計・施工は小嶋工務店(東京都、小嶋智明社長)、木材調達・加工にはTOKYWOODが携わった。

カネカのお家 ソーラーサーキットの契約工務店でもある小嶋工務店は長年、同工法の普及に尽力するとともに、東京の木である多摩産材をブランド化した家づくり「TOKYWOOD」にも取り組んでいる。カネカもTOKYWOODの地産地消の家づくりに賛同し、東雲寮を木造化することに決めた。

### カネカ製品を幅広く採用

カネカのお家 ソーラーサーキットはカネカの断熱材「カネライトフォーム」を基

礎・壁・屋根のすべてに外張りして気密施工することで、冬の保温性を向上し、結露など木材の劣化要因を減らす。併せて壁体内に二重の通気層を設け、夏の熱ごもりを和らげる。1つの通気層は、夏には気密と開放のモード切り替えが可能で、年間の温度カレンダーと外気温度センサーを組み合わせたアルタイルに制御する。これにより、主に夜間に建物や家具を冷まし、ふく射熱を和らげ、快適で健康な住空間を実現している。「同工場は三交代勤務があり、夏季に夜勤勤務した社員が日中就寝する際の冷房使用を抑えたい要望にも対応している」(カネカ)。

冬場は結露によるカビの発生を抑え、計画換気によって24時間きれいな空気環境を提供する。太陽電池は同社の化粧スレート瓦専用の「Soltilix EX(ソルティレックス)」を採用。意匠性スレート瓦専用の意匠性の高い同商品は、防眩加工により北側屋根への設置も可能だ。また、フレームを付けないことで薄く、専用金物を利用して取り付けることから省施工となっている。さらに屋根に余分な穴を開けず、屋根の漏水トラブルを防ぐ。

今回使用した木材は構造躯体だけで約400立方メートル。木造住宅に換算すると約35棟分になる。1階の土台、柱はTOKYWOODブランドのOKYWOODを使い、2階柱などは杉を使用。構造躯体に120°角の一般流通材を採用することで納期遅れを回避した。木材については、TOKYWOODのメンバーの協力で原木確保から製材・プレカット加工、施工まで一貫で行うことで柔軟に対応。施工については小嶋工務店と仙台、茨城県内の大工の約24人でチームを形成した。「TOKYWOODの取り組みに賛同しており、当社の技術と国産材の組み合わせは持続可能な社会づくりの取り組みの観点からも相性が良いと実感している」(カネカ)。

設計のこだわりとして寮内にはラウンジ、ダイニングルーム、トレーニングジム、スタディールーム、会議室など社員同士の交流の場を設けた。従来のような大浴場やランドリーなど共有部分の扱いは難しく、社員のプライバシーを意識した。また、女性社員や外国人の入居もあることから、動線にもこだわった。



1.1mm厚のカネカ有機EIL照明パネルが使用される予定だ。